

未来の成長戦略描け！

福岡・山口両県の
若手経営者座談会2
ぶっちゃけ会

2020年の東京五輪・パラリンピックまで極めて緩やかな成長軌道を迎えると言われる日本経済。地方では少子高齢化による経済の停滞、人材不足などの問題も顕在化している。中堅・中小企業は次なる成長に向けてIoT(モノのインターネット)投資や新規事業に活路を見いだそうとしている。福岡・山口両県を代表する中堅企業の若手経営者5人に多角化経営や人材獲得、活用などについて語り合ってもらった。

やる気ある女性を管理職登用 萩尾氏

ロシアの鉄鋼関連事業に期待 三島氏



萩尾 寿昭氏

はぎお・としあき 九大法卒。西日本シティ銀行を経て04年フジコー入社、16年社長。45歳。フジコー(北九州市戸畑区)1952年(昭27)創業。溶接や溶射など接合技術を駆使した複合金属製品に強み。電炉向け圧延ロールの国内最大手。消臭・殺菌を目的とした光触媒製品を次代の柱に。18年3月期売上高140億円、従業員849人。

れ、自動車や航空宇宙関連の試作部品に用いられている。マグネシウム粉末も内製化したので、アルミニウムやステンレス代替として金属成形用3Dプリンター向けに売り込んでいく。

石橋 国内の風力発電事業は過去2年間低迷している。一方で、台湾や東アジアは原発から再生可能エネルギーにシフトしており、大型投資が相次ぐ。洋上風力発電は今後が楽しみだ。ただ洋上風力発電は部品が相当大型化する。港の近くに工場を持つ必要性が現実として高まっている。

岡本 太陽光発電の市場は過去数年間、徐々に厳しい状況となってきたが、ようやく明るいきざしが見え始めた。だが、その矢先に西日本豪雨が発生し、広島工場(広島県三原市)と一部(広島県三原市)と一部の従業員が被災した。調

一本は各社の中核事業における成長戦略、新規事業の取り組みについてお伺いします。経営を取り巻く課題や展望をお聞かせ下さい。

三島 2016年に創業100周年を迎えたが、25年でありたい姿を皆で議論し、その姿に向けた中期経営計画をスタートしている。工程請負、自社製品、エンジニアリングといった従来の事業のほかに、IoTシステム事業、遠隔地で保全作業を補助する仮想現実(VR)、人工知能(AI)を使った製品検査システムの展開を社内外で始めている。

また海外にも目を向け中国、インド、ロシアへ進出している。特にロシアは鉄鋼用の連続鋳造用鋳型銅板を再生するMMP(Minimum Manganese)に期待している。6月には現地の市長を表敬訪問した。

萩尾 課題は技能職の離職と採用難だ。特に働き盛りの30~40代の転職が多く、頭を痛めている。引き合いが多くても人がいなければ仕事を請け負えないので、全国の拠点間で人を融通するなどやりくりしている。当社も庄延ロールなどを輸

マグネシウムを開発の中心に 松本氏 若者に他社と違う魅力伝える 石橋氏 養殖キャビア販売を今秋開始 岡本氏



三島 秀夫氏

みしま・ひでお 慶大商卒、米サンダーバード国際経営大学院修了。トヨタ自動車を経て06年三島光産入社、16年社長。40歳。三島光産(北九州市八幡東区)1916年(大5)創業。幅広い分野で工程請負や自社製品、設備事業を行う。連続鋳造用鋳型、半導体向けトレーなど複数製品が国内トップシェア。17年12月期売上高364億円、従業員2659人。

達先も被災し、9月上旬まで製品供給が止まった。影響は3カ月にはわたり、被害額も大きい。自然災害は避けようがない。皆で元気を出してV字回復を実現しようという前を向いている。

―新規事業の動向はいかがですか。

岡本 中部地方の自治体から再生可能エネルギー「SHIPS(シップス)」を受注した。新規事業として水素インフラ設備を立ち上げて1年、足がかりができたので防災設備として全国の自治体に販売したい。食品事

業はチョウザメ養殖を本格化するとともに、10月からキャビアの販売を始める。酒蔵も引き継いだので19年10月からは日本の仕込みも始める。

―皆さん新規事業にも積極的ですが、モノづくりの現場における人手不足は深刻化しています。

萩尾 東北、関東、関西と全国に拠点があるが、会社の知名度が低い東日本地域で特に採用が厳しい。外国人労働者は雇用期間が限られているので、高い技術が求められる職場に配置できない。過酷な作業を要求される現場があるので、女性や高齢者を自由に配置できない悩みもある。最近になって女性管理職を数人配置したが、皆やる気を出して前向きに取り組んでいる。

石橋 今は高校生の採用が特に厳しい。外国人の技能実習制度を考えなくもないが、定着するの

か不安がある。採用問題に正解はないが、我々の場合は風力産業と地球環境への思いを伝え、そこに共鳴してもらえれば人を採ろうとしている。他社と違う魅力を伝えなければ若い人の採用は難しい。

岡本 北九州市やその周辺地域は人口も学校も多いが、山口県山陽小野田市はそもそも自動車通勤が主で採用が限定されてしまっている。だから企業側の魅力をどれだけ伝えていくかにかかると。給与も大事だが新しいことに挑戦する、環境問題に取り組む理念に共鳴してもらえれば、共に苦勞して成長してもらえれば人材は長ければ続かない。

女性活用は今後の課題だが、シニアの活躍の場は広げつつある。技術の継承に加えて、新規事業でも製造業で長年培った経験を生かしてもらえば相当の戦力になる。



- 出席者
- 石橋製作所社長 石橋 和彦氏
 - 長州産業社長 岡本 晋氏
 - 戸畑製作所社長 松本 敏治氏
 - フジコー社長 萩尾 寿昭氏
 - 三島光産社長 三島 秀夫氏
- 〈司会〉
日刊工業新聞社西部支社長 神阪 拓

66th Anniversary

受賞を励みに更に邁進

ものづくり日本大賞 特別賞

山本 厚生 [代表取締役会長]
元吉 英昭 [技術開発センター長]
李 孝宗 [技術開発センター長]
岡田 晃大 [商品・生産技術開発部長]
古田 博昭 [商品技術・品質管理室課長]

世界初の鉄鋼圧延用ワークロールの再利用が可能
鉄鋼圧延用ロールの省エネ、低コストを実現する
世界初の再生技術・摩擦圧接技術の開発

※自社調べ 独自の技術開発

CPCプロセス概要図

生産効率4倍 強度も上げる摩擦圧接技術!

■鋼材外観形成(CPC)から輪郭形成まで、再生品完成まで

■軸部と鋼材の摩擦圧接状態

■再生品は新品ロール以上

■再生品は新品ロール以上の品質

■再生品は新品ロール以上の品質

地域未来牽引企業

FUJICO

【お問合せ先】株式会社フジコー 福岡県北九州市戸畑区中原西2-18-12 〒804-0011 TEL:093-871-3724(代表) FAX:093-884-0048 http://www.kfjc.co.jp